

越山若水

2021.7.21

「あなたが一番若いのはいつですか?」。この問いをご存じの方も多いただろう。過去は戻れないから答えは常に「今」。永六輔さんの言葉として知ったが、日本に限

らず英語の格言もある▼「今が一番若い」と叫ばんばかりの人生を送る90歳の大道芸人の記事を本紙で読み圧倒された。ギリヤーク尼ヶ崎さん。街頭や公園で踊り、投げ銭で生活してきた。「僕の芸はまだ伸びる」「体が動かなくなったら顔だけでも踊る」。言葉のすこみがただごとでない▼そばにまつわるエッセー集「そばと私」(文春文庫)にギリヤークさんの文があった。書かれるのは桜咲く公園で踊った帰り、達成感に浸りつつ、もりそばに舌鼓を打ったことだけ。識者や文化人ら他の筆者がうんちくを語る中、生きる喜びが素朴につづられていた▼ピアニストのフジコ・ヘミングさんの言葉に「私はピアノでピアノは私」(「1日1話、読めば心が熱くなる」致知出版社)がある。ピアノがなければ私はないとの意。ギリヤークさんの踊りもそうだろう。芸術、スポーツなどに懸ける人々みな同じかもしれない▼別の日の紙面には、県内の79歳の方が全国規模の芸術展で新人賞を獲得したとの話が載った。水墨画で活躍される方である。大先輩方にいただいた良き刺激を糧に、冒頭の問いを自分に対し忘れないようにしたいと思う。ただ、これが難しい。